

## 宮城訪問レポート

宮城での被災地支援活動の報告です。

4月15日(月)の晩から、わたしはバスに乗り、約14時間の長旅を経て16日(火)、ついに仙台に到着。多賀城の塩釜聖書バプテスト教会の震災復興支援プロジェクト「ホープみやぎ」を通して、17日(水)から20日(土)まで、4日間で6回、仮設住宅集会所でのコンサートをさせていただきました。



こちらは多賀城駅前で迎えてくれた「碑」と、桜。

桜大好きなわたしは、関西では今年、桜を楽しむ間もなくあっという間に花の時期が終わってしまったので、桜前線を追いかけてきた感じで、宮城で桜に追いつけたのがとても嬉しかったです。



「多賀城」と聞いてもピンとこない方のために、路線図。真ん中あたり、たくさんの路線が交差しているところが「仙台」海岸沿いの右下の方の黒い駅が「石巻」、左下の黒い駅が「福島」です。

16日は、何分14時間の旅の疲れもあったので、このあと数日分の朝食など、買い物に連れて行ってもらったぐらいで、比較的ゆっくりさせていただきました。

翌17日(水)は、七ヶ浜の2ヶ所の仮設の集会所でコンサートをさせていただきました。

それぞれ中規模の仮設住宅、という感じでしょうか。

コンサートと言っても、歌詞カード持参で皆さんと一緒に歌っていただく「歌声喫茶」コンサートで、唱歌やちょっと懐かしい歌を準備し、おしゃべりを交えて皆さんと楽しいひと時を過ごしました。

今回初めて、カラオケをICレコーダーに入れて持参し、操作を自分でしながら進めるというやり方をしま

したので、うまくいかどうか心配だったのですが、思いのほかうまくいったのでホッとしました。

驚いたことは、どの会場に行っても早くから来て待ってくださっていた方がおられたことでした。思わず集会が始まる時間を確認したほど、どの会場でも、お世話係以外の方で早く来ている方がおられました。

また関西で、4月13日に淡路島を震源とする地震があったことで皆さんとても心配して下さっていました。「これないんじゃないかと思って心配したよ」と言ってくださった方もおられました。皆さんの優しさ、思いやりに、のっけから感激してしまった私でした。

また、どの会場でも1曲目に「いい日旅立ち」を歌わせていただいて、  
♪ああ日本のどこかにわたしを待ってる人がいる～

という歌詞に合わせて「今日は皆さんがわたしを待ってくださっていたのかどうか分からないんですが、関西から一人旅立ってきました」と言うと毎回必ず「待ってたよ！」の優しい掛け声がかかり、温かい笑に包まれたことが何より嬉しかったです。

七中では「百恵さんよりうまい」って言ってくださった方も（^◇^）やさしいですね～（笑）

コンサート後のティータイムはとても大切な時間で、どの会場でもたっぷりティータイムの時間をとり、わたしもその時間に皆さんの色々なお話を聞かせていただきました。

「来てくれるだけで嬉しい」  
の声を多数いただきました。

「歌に元気をもらえた」「歌に力をもらった」「励まされた」  
たくさんの方に、わたしも励まされました。

この日、仮設からの帰りに「多聞山」というところに連れて行っていただきました。  
桜、木蓮、梅、色々な花が咲いていました。



18日（木）は規模の小さな仮設。  
10名ほどの集まりだけど、アットホームな集いでした。

小さな会場だったので、前日使った本格的なPAシステムを利用せずに、前日モニターとして使ったスピーカーに持っていったエフェクターとマイク、カラオケをつないでのコンサートでしたが、与えられた献金で購入したエフェクターが役に立って感謝！

先月、アメリカからのキルトチームが来られて、キルト作りを教えてもらったそうで、ティータイムには何人かの方から、その後完成した作品を見せていただきました。

最後に小さな声で「癒されました」の一言をいただいたのが印象的でした。

18日は夜教会での祈禱会に出席させていただきました。  
この日は宣教師のバークマン先生からの奨励で、ベバリー・シェー氏が亡くなられたことに関連して、氏の証しを引用され、「キリストには代えられません」を会衆で賛美。

集会後、大友幸証先生に「（仮設でも）ぜひ、聖歌を歌って」と言われ、翌日、急遽聖歌の曲（「キリストには代えられません」「驚くばかりの」）を賛美することに。

スタッフのNちゃんがピアノを弾けるということでキーボードを持って行って伴奏をして下さいました。

という訳で、19日（金）は亘理の2ヶ所の仮設集会所に伺いました。  
午前、旧館仮設住宅  
やはりわたし達より早くからきておられる方がおられ、思わず集会の開始時間をスタッフの方に確認したほどでした。

人数もたくさん集まってくださり、すごくノリが良いのにびっくり。  
一曲目からとても声がよく出ていたので  
「みなさん合唱団ですか？」と聞いたら、「旧館合唱団だよ」とジョークが帰ってきました。  
急遽リストに加えた聖歌もよく聞いてくださり、「驚くばかりの（アメイジング・グレース）を口ずさみながら聞いて下さる方もおられました。

「驚くばかりの」では3番を「ハレルヤアーメン」の歌詞で皆さんに歌っていただきましたが、それも違和感なく歌っていただきました。



この仮設では参加された方全員がキルトの作品を持ってきてくださっていて、全員作品をもつての写真撮影は圧巻でした。



←これは、お昼ごはん代わりに食べたおはぎ。  
真ん中の緑のはずんだ餠です。すごく美味しかったです！！



午後は巨理の公共ゾーン仮設住宅

ここは500世帯以上の大規模仮設住宅で、今回伺った仮設住宅  
の中では一番大きな仮設住宅でした。

たくさんの方がきてくださり、特に男性の方が数名きてくださ  
り嬉しかったです。

ここもノリが良く、歌声大きかったです。



←これはその時頂いた手作りのエコたわし。

「巨理は苺の産地なので苺の形にしました」とのこと。

「送り出してくださった皆さんにも分けてください」とたくさんいただき  
ました。

「これを使いながら、わたしたちのことを思い出してください」と。

また、ここではティータイムの時間になってから、「もう一曲何かぜひ歌ってほしい」とのリクエストをい  
ただき、初めてアンコールの時を持たせていただきました。

いったん帰りかけたのに、わざわざ戻ってきてくださって、「恩送り」という言葉を教えてくださった方（男  
性）もおられました。

皆さんとの一つ一つの交流が嬉しかったです。

19日夜は仙台からSちゃんが会いに来てくれて、Hちゃんと三人でご飯を食べに行きました。

いったのは「じゅげむ」というお店。

女川で被災され、多賀城に来てカフェ&レストランを開いておられる方のお店でプレハブなんですが、中に  
入ってビックリ。すごく素敵なお店だったのです。



←カフェスペースは、夜はこんな感じですが、  
昼間はこんな感じ。→



お店の内装もとてもおしゃれです。→



お料理もとてもボリュームがあっておいしかったです。  
これデザートもついて 1000 円でした！→



20日(土)午前中、集会がなかったので、少し被災地区に連れて行ってもらいました。

と言っても、あまり遠くまで行って、午後の集会に送れるといけないので、ということで多賀城からそれほど遠くない井戸浜地区というところに連れて行っていただきました。





この地区は津波がひどくなく慣れた方もたくさんおられたそうですが、既に瓦礫などはほとんど撤去されていて、元の風景のわからないわたしたち他の地域

から来た人間にとっては、どこが畑だったのか家だったのかわからない、とにかく何もない荒涼とした風景でした。



この写真は、津波で何人もの方が亡くなられた井戸浜地区で、プレハブの家を建てて畑を再開しておられる方を訪問した時に「色があるとホッとするんだよね。それでわざと全部食べないで見るために残しておいたんだ」と言っておられた菜の花と、庭に植えられていた水仙。



「売るほどの量は作れないけれども、誰かに喜んでもらえたらうれしい」と、たくさんくださった新鮮な野菜は、次の日、教会のお昼ごはんではサラダにいただきました。

20日の午後は謡（うたう）というところの公園に作られた17戸ほどの小さな仮設内の集会所での集いでした。仮設住宅の規模そのものが小さいので、集会所も仮設住宅の一室がそれに充てられていて本当に小ぢんまりとした家庭的な集いでした。

今回、規模や集まっておられる方にあわせて、それぞれの集会所で曲のセットを変えながら歌わせていただいたのですが、特にここでは曲を少なめに、おしゃべりの時間をたっぷりとらせていただきました。

逆に（？）仮設の方のウクレレ演奏を聞かせていただいたりもしました。





21日には塩釜バプテスト教会の礼拝で証しと賛美をさせていただけたことも感謝しています。

そして21日の夜、後ろ髪をひかれながら、再び仙台からバスに乗り、14時間かけて関西に帰ってきたのでした。



これは教会の裏の、中学校のグラウンド脇に咲いていた桜。21日の朝はなんと雪が降り、桜と雪の競演となりました（ちょっと雪が見えにくいですが・・・）

今回の旅は、わたしにとっては本当に貴重な、素晴らしい出会いに満ちた、宝物のような時間となりました。

皆さん、とても前向きで明るくしておられました。一方で、「いまだに、元の家があったところには一人で行けない」

「昨年の3月11日は精神的にとっても不安定だったけれど今年は小物づくりに集中していたので何とか落ち着いて過ごすことができた」といった声もお聞きました。

明るく前向きにしておられる皆さんも、ある意味で、「そうしなければ生きて行かないんだ」というような、「覚悟」とでもいうようなものを感じました。

他にも手作りのビーズストラップやビーチグラスのネックレスなど、色々な手作りの品をいただきましたが、何よりも、皆さんの温かくやさしい心をたくさんたくさん受け取った仮設集会所のコンサートでした。



励ましに行ったつもりなのに、たくさんのあたたかさ、優しさをいただき、たくさんのことを教えられて帰ってきました。

ここに書いたことだけでなく、そして被災地の方たちとの関わりだけでなく、旅の間にわたしの周りで起こった（自宅の周辺で起こっていた出来事も含めて）すべての出来事を通して実にたくさんの方から受け取らせていただきました。

すべてを書くことは難しいですが、一つ一つをわたしの血とし、肉と

し、これからの歩み、これからの働きの為に益となるように、益としていただけるように祈っていきたいと思います。

背後でお祈りや尊いささげものを通して支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。送り出してくれた家族にも感謝しています。

どこの仮設でも、

「みんな『わたしの分まで歌ってきてね』と思いを託してくれました。体は一人ですが、思いはたくさんたくさん、背負ってきたんです」

と皆さんの気持ちをお伝えしてきました。

次はいつ行けるかわからない東北ですが、まだまだ支援コンサートを続けていきたいと願っています。

ぜひ、続けてこの働きのためにもお祈りいただければ幸いです。

<http://www.hopemiyagi.org/1/post/2013/05/2013591.html>

↑ホープみやぎのブログにも、亘理の仮設での様子がアップされていました。